“地域版ESD”モデル事業実施について

【資料３】

１．視点を踏まえた展開案

ア　こどもの主体的な学びの促進

≪目的≫・こどもが自ら考え、行動する力を育むため、こどもが実施したいことを尊重した事業を展開。

≪方法≫・こども実行委員会で学びの時間を取り入れる
・学びの時間では防災をテーマに講師を招聘し話を聞いたあと、グループワーク等を行う
・防災について学んだことから、実施したいことについて、こどもが意見を出し合い、出展内容を検討・決定する
・防災フェス当日に向けどんなことをしていく必要があるか、サポーターの力を借り、検討し準備する

イ　多様な世代が協力する仕組みづくり

≪目的≫・地域のつながりと学びの広がりをつくるため、世代間が学ぶ等、地域の大人とこどもが身近にかかわる環境づくり

≪方法≫・多様な世代(特に若者)に参加してもらうため、高校・大学・地域にサポーター募集について周知

ウ　地域との連携とコーディネーターの活用

≪目的≫・活動の質と継続性を高めるため、地域人材や地域資源をつなぐ

≪方法≫・広い人脈を持っている人や素質がある人に声をかけ、コーディネーターとして事業に携わってもらう

エ　大人が参加しやすい環境づくり

≪目的≫・大人が地域の事業に参加しやすくするための、機会や環境づくり

≪方法≫・まちづくり協議会・SOS委員会と協議し、
・こども実行委員会の土曜開催や親子での参加
・1日のみの参加を可能としてサポーターを募集

オ　情報の共有と発信の強化

≪目的≫・大人にもこどもにも地域課題を共有できるよう、情報にアクセスしやすい発信をする
・実行委員会の活動について地域住民に周知する

≪方法≫・LINE、Sigfy、全戸配布、掲示板、HP、口コミなど、紙(チラシ)やSNSを活用して周知する

２．モデル事業について

≪モデル学区≫
老上学区

≪選定理由≫
・老上小学校がスクールESDくさつの令和4，5年度のモデル校（令和5年度テーマ：防災）
・学区にもスクールESDの理念が浸透してきている
・学校運営協議会でスクールESDの取り組みについて協議
・地域の人も、できることをやろうという意識に変化
（CS・地域協働合校合同研修会　発表より）

≪モデル事業≫
防災フェス

≪事業概要≫
災害からの身の守り方や減災について知り、災害に備えるきっかけとして、楽しく老上の防災について学ぶ機会とする。

≪日時≫
8月30日(土)　9:00～13:00

≪会場≫
老上小学校体育館

≪防災フェス≫

【当事業で取り組むモデルの趣旨・目的】
地域の大人とこどもが同じテーマについて共に活動することで、こどもが主体となって、自ら考え、行動できる人材の育成に取り組むとともに、地域のつながりやかかわり、地域の一員としての主体性をはぐくむ。

こどもブース

【実施内容】こどもが検討し、やりたいことを実施

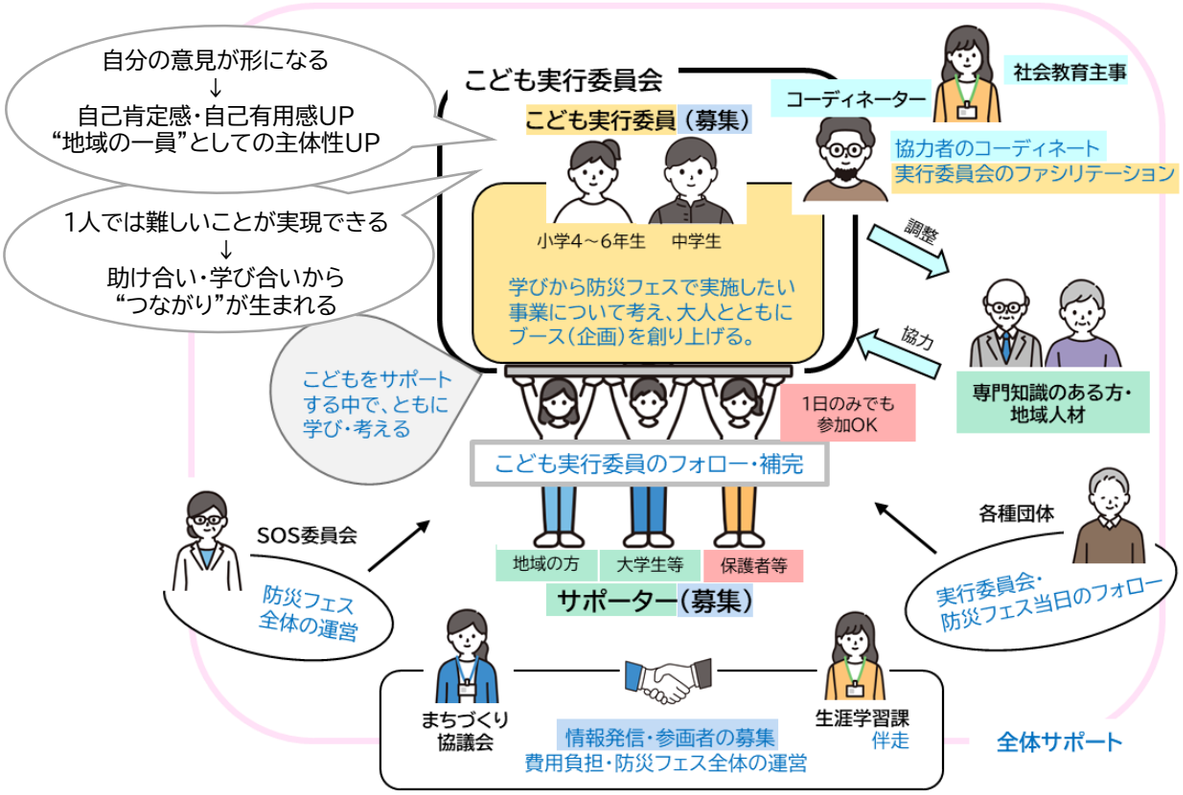
【こどもの役割】事業の企画、準備、運営

【大人の役割】こどもだけではできないことのフォロー

【対象者】地域の大人やこどもを対象

３．組織と運営方法

≪運営方法≫
実行委員会形式によるブース(ステージ)の企画・運営
→実行委員会の実施にあたっては、まちづくり協議会・SOS委員・生涯学習課の連携により、こどもを中心に運営する。



４．こども実行委員会の具体的な展開について

月	4月	5月	6月	7月	8月
まちづくり協議会 生涯学習課	◎コーディネーター探し こども実行委員会の内容について協議	◎高校・大学に周知 ◎こども実行委員・サポーター募集 ◎コーディネーター探し	◎高校・大学に周知 ◎こども実行委員・サポーター募集 ○こども実行委員会①・意見出し	○こども実行委員会②・テーマ決定 ○こども実行委員会③・準備 ◎こども実行委員会活動内容発信（HP）	◎こども実行委員会活動内容発信（HP） ○こども実行委員会④・準備 ○こども実行委員会⑤・リハ ○防災フェス当日
SOS委員会	参加しやすい環境について協議		○こども実行委員会①・意見出し	○こども実行委員会②・テーマ決定 ○こども実行委員会③・準備 ◎こども実行委員会活動取材	◎こども実行委員会活動取材
こども実行委員会			◎こども実行委員会①・意見出し	◎こども実行委員会②・テーマ決定 ◎こども実行委員会③・準備	◎こども実行委員会④・準備 ◎こども実行委員会⑤・リハ ◎防災フェス当日